

むかし「局アナ」いま「隠居」

ラジオ体操 ラヂオ搭



上田 博章(絵・文)

1933年徳島市生まれ 大阪府在住
 ■京都大学農学部林学科卒業
 ■元朝日放送アナウンサー
 ■元池田マルチメディア代表取締役
 ■講演、朗読指導など以外は隠居中



私はラジオ体操が出来ません。

子供のころ、国民学校で教えられたラヂオ体操と、今のラジオ体操とは、全く違うからです。

今や、日本人なら誰もが歌える「ラジオ体操の歌」は、「♪新しい朝が来た」

…で始まる有名な歌ですが、戦前のラヂオ体操の歌ではラヂオが「叫ぶ」んですわ。

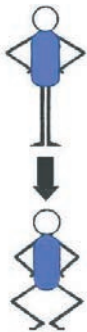
踊る朝日の光を浴びて

曲げよ伸ばせよ我等が腕かみな

ラヂオは叫ぶ 一、二、三、

75歳以上の方にとっては懐かしい メロディーではないでしょうか。

また戦前のラヂオ体操は、テーマソングだけでなく、体操のメロディーも違うし、身体の動かし方…というか「振り付け」も違いました。



例えば、最初の運動です。昔は、両手を腰に当てて「膝の屈伸」でしたから、

今と下半身は同じですが、上半身はそのままの状態です。動かしませんでした。

また、身体の動かし方や音楽だけでなく、「文字」も違うのです。

ご承知のように、戦前は旧仮名遣いで書きますから、「ラジオ体操」は「ラ「ヂ」オ体操」と書いていました。

私も旧仮名で義務教育を受けましたので、ケジメをつけて、戦前の「Radio」は「ラ「ヂ」オ」と書いています。もうお気づきだったかも知れませんが。

*

国民学校二年生のとき、戦争が始まりました。

当初は普通にやっていたラヂオ体操も戦況の悪化で、やれ疎開だ空襲だとなると、ラヂオ体操なんかどこかへ行ってしまう。

軍事訓練の真似ごととか、手旗信号、柔道の朝稽古、避難訓練などで身体を鍛え、疎開先では田植え、草掻き、稲刈り、開墾、薪運び…。

もう嫌というほど身体を動かさまくっていたので、ラヂオ体操を学校でやる

チャンスなどありません。

ですから、体操の音楽も、それに合わせた振り付けも、忘れかけていたのです。

ところが、一九四四年夏、「縄跳び体操」なる番組が登場したとき、私は大きなショックを受けました。

敗戦の前年ということで、NHKも軍歌や戦時歌謡をやたら流す時代でしたから、縄跳び体操のメロディーやピアノの演奏が、まことに爽やかにして素晴らしい、今もその旋律が私の脳裏を駆け巡っているほどです。

歳を重ねると、こういうことが無性に懐かしくなるもので…埼玉県 川口市の「NHK アーカイブス」で探してもらったのですが、音源も音符も記録も残っていませんでした。

ところがネットを見ると、この曲を復刻した篤志家がいるではありませんか。管楽器やギター、ドラムなどが入ったバンドなので、戦時中聴いたピアノソロとは雰囲気の違いはありますが、70年ぶりに聞いて、とても懐かしかったですよ。

あちこちにメロディーや和音の怪しい箇所があったので、たぶん誰か御老体のハミングを若手が採譜したのだろうと思います。

(<https://www.youtube.com/watch?v=2d-epJDDpAY>)

*☒

「縄跳び体操」「ラヂオ体操」…これら番組の製造元はNHKに他なりません。

そのNHKは一九二五年(大正14年)、東京、大阪、名古屋の三都市に放送局を立ち上げています。

「ラヂオ体操」が始まったのは、その三年後でしたが、当時まだラヂオ受信機が高価だったこともあって、放送を聞く人など殆んどいませんでした。

そこで、ラヂオの普及を目的とした「ラヂオ搭」なるものを大阪の天王寺公園に建設してみたところ、その効果たるや拔群で、やがて日本中にラヂオ搭が作られ、一時は四六〇基にも達したということですよ。

しかし、このラヂオ搭も、戦時中の金属回収やラヂオ受信機の普及などによって

姿を消し、今や20数基しか残っていません。

ところが、最近はこれが一種の文化遺産として評価されるようになり、徳島のラヂオ塔も徳島市民遺産に認定されているのです。

＊

徳島の地にラヂオ塔が登場したのは一九三三年（昭和八年）で、NHK徳島放送局が放送を開始したときのことでした。

この年は天皇陛下誕生の年であり、ついでながら、上田博章もお相伴よろしくラヂオ塔の近くで生まれています。



ラヂオ塔は、徳島公園の石垣の頂上に作られました。頂上へは、石段を22段も登らなければなりません。見上げるほど高い石垣は徳島城の渡り櫓（太鼓櫓）を支える巨大な足場でした。

しかし、立派な渡り櫓も維新政府の命令で撤去され、今は石垣だけが、渡り櫓の規模を偲ばせています。

19世紀の半ば、日本では革命というか内戦というか、とにかく戊辰戦争が決着し、維新という名の武力革命が成就しました。

その新政府は日露戦争に勝利したあと、徳島藩主の城址や屋敷跡を公園にする大規模な土木工事を行ったのです。

渡り櫓を支える、小高い石垣の上には日本海々戦で活躍した駆逐艦「追風」のマストが掲げられました。

そしてこの新しい公園を、「日露戦争戦勝記念公園」と名付けたのです。

私のような昭和時代の人間は、「城山公園」とか、「徳島公園」と呼んでいたのですが、地図を見ますと、今は「徳島中央公園」という物々しい名前が記されています。きつと「中央」という字が付いたら値打ちが上がると思つた市役所の職員が改名したに違いありません。

敗戦の年、私たち一家は素寒貧すかんびんになって故郷に帰り、私も七年間を徳島で過ごすことになりました。

ラヂオ塔が聳える公園はご近所生まれの私にとつて懐かしく想い出の詰まった大切な公園です。

しかしこの公園も戦後しばらくは、夜ともなると、暗くて物騒な所でした。

徳島に限らず、あの頃は若い二人が、楽しく安全に夜を過ごす場所がなかったからでしょう。

「デートするカップル」を、当時「逢引きするアベック」：なんて言っていました、とにかく、夜の徳島公園は、「アベック天国」になっていました。

ラヂオ塔の横で初体験を済ませた、という武勇伝を耳にしたこともあり、また、それを覗き見したり、金品を脅し取ったり、女を奪ったりする、不屈き者が跡を絶たず、ラヂオ塔から少し離れた公衆トイレでは若い女性が殺された事件もあり、迷宮入りしたあげく時効になっています。

そんな公園ですが昼間は安全で素敵な場所でした。

特にラヂオ塔の周辺は見晴らしがよく、ベンチも用意されていましたので、近隣の市民にとつて憩いの場になっていたので。

ラヂオ塔が建つたのは、昭和初期ですから、当時の地方都市では未だラヂオが普及していませんでした。

そこへ音の出る広告塔が現れたのです。

新しい音声メディアは、石垣の上から次々と、音声情報を発信するので、ラヂオ塔の周りには大勢の市民が集まったそうです。

きつと民放テレビが開局した当時の「街頭テレビ」の周辺と、そっくりだったのではないのでしょうか。

「街頭テレビ」が徳島に登場したのは、一九五六年頃で、新町橋袂公園の脇に立っていたのです。

阿波踊りの囃し唄に、
新町橋まで

行かんか 来い来い

というのがあるように、新町橋界隈は駅からも近く徳島の繁華街でした。

当時の徳島はNHKも民放も、まだテレビ電波を出していませんでしたので、海を隔てた大阪の番組を観ていたのです。

ということは、新町橋の西詰にあった街頭テレビは、関西で唯一の民放テレビ局OTV（大阪テレビ）の施設だったに違いありません。



私も新町橋の袂で何度か足を止めて大阪発の番組を見上げたりしたのですが、OTVはやがて朝日放送と合併しましたので、徳島の街頭テレビは、朝日放送の施設となったわけです。

まさか数年後に自分がその放送会社に就職して、人生の大半を大阪で暮らすことになるのは夢にも思いませんでしたねえ。